こころの問題に対して「色彩樹木画」を用いた介入

The intervention using "the Color Tree Drawing Test" for the mental problem of junior high school student

中村仁志Hitoshi Nakamura・太田友子Tomoko Oota ・丹　佳子Yoshiko Tan
山口県立大学看護栄養学部看護学科
Depertment of Nursing,
Faculty of Nursing and Human Nutrition, Ymaguchi Prefectural University

要旨

学校場面でのカウンセリングでは、不登校やいじめの他に、1990年代～増加している発達障害、児童虐待（ネグレクト）、衝動的暴力への対応が大きな課題である。さらに現在、中学生に於いて抑うつ傾向を見る児童・生徒が増加している。Ｂ中学１年生では、学校は「楽しい」と殆どの生徒が答えていたが、勉強へのつまずきが少しづつ顕在化し始めており、こころの状態としては約３／４の生徒が「腹痛」として身体症状を起こしやすく、「嫌なことを思い出す」とした自己肯定感の危うさを感じさせた。DSRS-C16point以上の抑うつ状態の生徒が１／４に見られ、「やる気」のない生徒が40％に見られた。

こころの問題への支援の一環としてと「色彩樹木画」を用い中学生の抱えるこころの問題を捉えようとしているが、特に抑うつ状態では「色彩樹木画」の質問項目で、「寂しい」、「小さい木」、「ネガティブ」な考え・思いのイメージとDSRS-Cのpointに関係があった。

キーワード　DSRS-C、抑うつ状態、中学生、色彩樹木画、スクールカウンセラー

はじめに

こころの問題に関して学校場面においては平成７年に文部省（当時）が「スクールカウンセラー（以下SC）活用調査委託研究事業」としてSCを学校に派遣し始めた。平成23年度山口県スクールカウンセラー活用事業では小学校70校、中学校156校、中等教育学校１校、高等学校50校に配置され、中学校は全校配置を行っている[1)]。中野[2)]は、日本の学校カウンセリングが直面している大きな課題は不登校やいじめの他に、1990年代～増加している発達障害、児童虐待（ネグレクト）、衝動的暴力への対応であるとしている。また傳田[3)]によると、現在の中学生に於いて抑うつ傾向を見る児童・生徒が増加しているとし、中学年代で５人に１人の割合で抑うつ傾向を持つとの結果が得られている。こうした学校内でのこころの問題の増加傾向とともに、多様化、複雑化しているのが現状である。しかしながら、保護者、教師などのこころの問題への理解度は様々で、対応もまちまちである事が状況を複雑にしていることもある。

こうしたこころの問題などによって学校生活を有意義に過ごせていない中学校生徒の支援のために、「色彩樹木画」を用いてこころの内面を分析し、関わる者や生徒本人にも理解してもらう材料として用いる試みを行っている。これは、保護者、教師などに生徒のこころの問題の理解を深めるために資料として有効に活用できている実感がある[4)]。

今回、こころの問題と「色彩樹木画」の特徴との関連をより深めるために、自分の描いた木を見てその有り様を言語化してもらった質問を中心に分析を行った。中学生の抱えるこころの問題、特に抑うつ状態が「色彩樹木画」の表現にどう反映しているのか検討し、結果をまとめたので報告する。

研究方法

１）対象

Ｂ中学校１年生３クラス全員88人対象（有効80人）

＊山口県立大学看護学部栄養学科　Department of Human Nutrition, Faculty of Nursing and Human Nutrition, Yamaguchi Prefectural University

2）方法

クラス毎に「こころの健康調査」として以下の調査を行った。（平成22年５月～７月の放課後実施）

＜調査項目＞

（１）こころの健康調査

①現在の学校等で困っていること（友だち、勉強、部活などを対象とした８項目）

②抑うつに関連したこころの問題（15項目）

③パールソン自己記入式抑うつ評価尺度 DSRS-C（18項目）

（２）「色彩樹木画」

①16色のクレヨンで描く「色彩樹木画」

「色彩樹木画」についての教示：（こころに浮かんだ）木の絵を描いて下さい。

道具：八つ切り画用紙（四つ切り半折り）
16色クレヨン

②描いた木についての質問（8項目）

◆この木はどんな木をイメージして描きましたか※

◆この木の大きさはどのぐらいですか※

◆この木はどんなところに生えているのでしょうか

◆季節はいつですか

◆この木の年齢は（描いた木を人に例えてください。樹齢ではありません）

◆この木の性別は（描いた木を人に例えてください）

◆この木は今、なにを考えたり、思ったりしているのでしょうか※

◆描いた自分の絵を見てどう思いますか

※今回検討項目

分析については、SPSS ver17　for Windowsで行った。

4）倫理的配慮

この調査は個人相談時に使うとともに、研究で使わせてもらう場合があり、研究で使う場合、個人情報がもれないように十分配慮することを口頭と文書で説明し、文書は保護者に見せるよう伝えた。

結果

1）こころの健康調査

中学校１年生全員88人対象に調査を行い、有効回答数80人（90.9％）であった。

（１）学校について

学校について質問したところ、「少し楽しい」が47人（58.7％：男子26人、女子21人）で最も多く、「少し楽しくない」６人（7.5％：男子・女子共３人）であった。不明の男子１人は「（今の時点では）まだ分からないから」との記載があった（図１）。

男女間での有意な差は認められなかった。

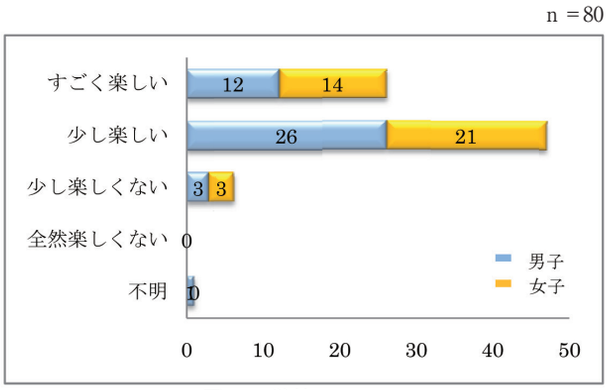


図１　学校について

（２）勉強について

勉強について質問したところ「少し分かる」が42人（52.5％：男子23人、女子19人）で最も多かった。調査時点で勉強が「全然分からない」２人（2.5％：男子のみ）で、「少しわからない」を含め、20人（25.0％：男子８人、女子12人）だった（図２）。

男女間での有意な差は認められなかった。

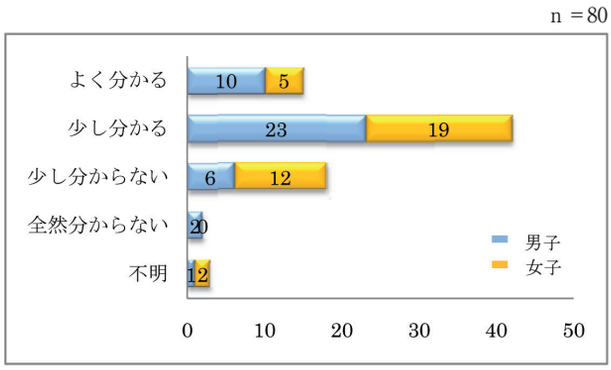


図２　勉強について

（３）今、困っていることについて

今「困っていること」について質問をしたところ、何らかの困りごとを抱えている生徒が36人（46.0％：男子17人、女子19人）であり、困りごとの有無で男女の差はなかった（表１）。

「困っていること」では「勉強の問題」が最も多

表１　困りごとの有無

	あり	なし	計	P
全体	36	44	80	
男子	17	25	42	n.s.
女子	19	19	38	

χ^2 検定

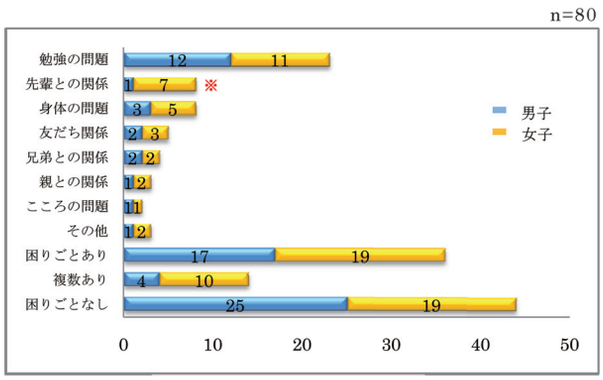


図３　今困っていることについて

く23人（28.8％：男子12人、女子11人）であった。また複数項目に該当していた生徒は14人（17.5％：男子４人、女子10人）であった。項目に該当していない困りごとのない生徒は44人（52.5％：男子25人、女子19人）であった。（部活の）先輩との関係で男女間に有意差が見られた（図３）。

【「困っていること」についての自由記載】

◆ない。でもこまっている。
◆友達の兄さんにいじめられそうな気がする。
◆身長が伸びない。
◆勉強が全くやる気になれない。
◆身長が伸びない。どうしたら身長が伸びますか？期末テストは、９科目あって全部良い点がとれるかとても心配です。
◆身体能力がないこと。
◆少し困っていますが大丈夫です。
◆勉強が全然解らない。
◆ピアノをやめたい。
◆どうしたら５．６才下の弟とけんかをせずにできるか。
◆どうしたら頭がよくなるか。職がみつかるか。将来やりたい仕事につけるか。
◆今、本当に先輩となかよくやっていけるか。うまくやっていけるかが、ほんの少し気になる。
◆先輩となじめない。勉強がついていけるか不安。
◆先輩にいじめられたりしないかなということと、テストの点数が悪かったこと。いつか、ひとりぼっちにされそうな気がする。

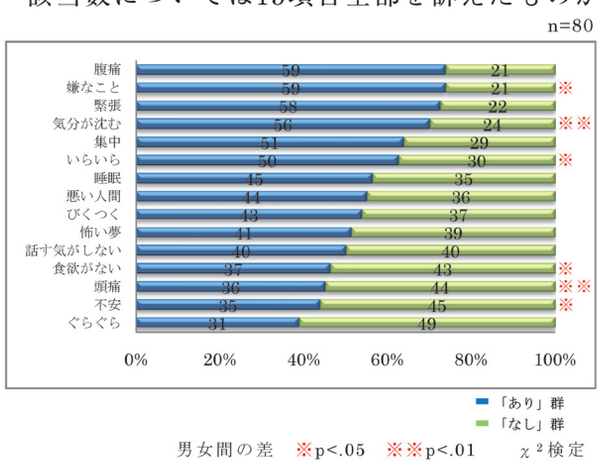
（４）「こころに関係する問題」について

「こころに関係する問題」について15項目の質問をし、該当項目に「いつもそうだ」、「時々そうだ」「ない」の３択で聞いたところ、「いつもそうだ」と「時々そうだ」を含めた「ある」群では「腹痛がある」、「嫌なことを思い出す」が59人（73.8％）で最も多かった（図４）。15項目中、11項目で半数を超えていた。

６項目で女子が有意に「ある」群が多かった（※印）。

「いつもそうだ」のみで見ると「嫌なことを思い出す」22人（27.5％）、「緊張する」20人（25.0％）、「いらいらする」16人（20.0％）であった。

該当数については15項目全部を訴えたものが



男女間の差　※p<.05　※※p<.01　χ²検定

図４　「こころに関係する問題」について

６人（7.5％）であり、11項目を訴えたものが13人（16.3％）と最も多く、平均項目数は8.6±4.4項目であった。全く該当しなかったものは３人（3.8％）のみであった（図５）。

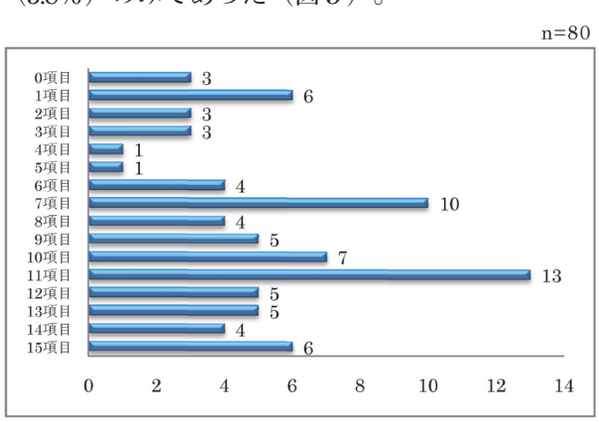
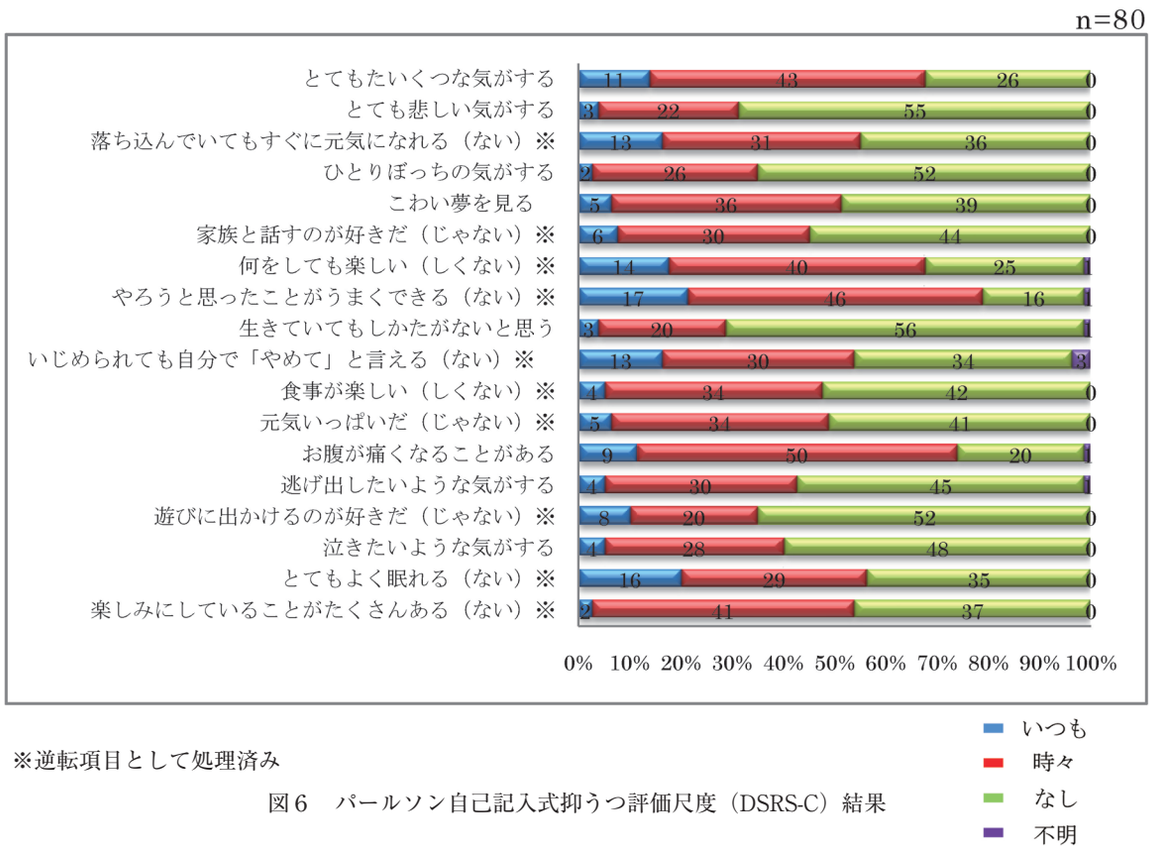


図５　「こころに関係する問題」項目数

該当項目数で、女子が有意に多かった。

（５）パールソン自己記入式抑うつ評価尺度（以下DSRS-C）について

抑うつの状態を知るためにDSRS-Cを行った。「いつもそうだ」に該当する項目として「やろうと思ったことがうまくできない」が最も多く、17人（21.3％）であり、「時々そうだ」を加えると63人（78.8％）であった。「生きていてもしかたがないと思う」では、そうでは「ない」が56人（65.0％）で最も多かったが、３人（3.8％）が「いつもそうだ」と答えていた（図６）。



※逆転項目として処理済み

図６　パールソン自己記入式抑うつ評価尺度（DSRS-C）結果

DSRS-Cのpointについて、平均10.85±6.33（男子10.07±5.84、女子11.71±6.80）であり、16point（cut off）以上の抑うつ状態の生徒は20人（25.0％：男子９人、女子11人）であった。

今、「困っていること」の有無でDSRS-C pointに有意な差が認められた。「困っていること」では、「勉強問題」、「学校人間関係」に有意な差が認められた。「困っていること」が「複数」あるものと「１つだけ」のものでもDSRS-C pointに有意な差が認められた（表２）。

「学校人間関係」の下位項目では「先輩問題」のみに有意な差が認められた（表３）。

表２　今「困っていること」とDSRS-C pointの関係

困りごと	n	平均値±SD	P
なし	44	8.80±6.17	0.001
あり	36	13.36±5.64	
勉強問題	n	平均値±SD	P
なし	57	9.51±6.22	0.002
あり	23	14.17±5.40	
身体問題	n	平均値±SD	P
なし	72	10.74±6.51	n.s.
あり	8	11.88±4.58	
学校人間関係	n	平均値±SD	P
なし	69	10.26±6.00	0.036
あり	11	14.55±7.37	
問題数	n	平均値±SD	P
単数	22	12.05±5.67	0.025
複数	14	15.43±5.11	

表３　学校の人間関係の下位項目

友人問題	n	平均値±SD	P	先輩問題	n	平均値±SD	P
なし	75	10.71±6.28	n.s.	なし	72	10.31±5.98	0.02
あり	5	13.00±7.45		あり	8	15.75±7.67	

t 検定

（６）「やる気」とDSRS-C pointの関係について

「やる気」について、時々を含め「ない」生徒が32人（40.0％）であり、男女間で「やる気」の有無に有意な差が認められた（表４）。

「やる気」の有無とDSRS-C pointには有意な差が認められた（表５）。

表４　やる気の有無と性別との関係

表４　やる気の有無と性別との関係

	なし		あり	計	P
全体	32		48	80	
男子	10		32	42	0.002
女子	22		16	38	
	いつも	時々	あり	計	P
全体	4	28	48	80	
男子	1	9	32	42	0.008
女子	3	19	16	38	

χ^2 検定

表５　やる気とDSRS-Cの関係

DSRS-C	n	平均値±SD	P
全体	80	10.85±6.33	
やる気あり	48	8.42±5.52	0.00
やる気なし	32	14.50±5.74	

t 検定

３）「色彩樹木画」について

（１）「色彩樹木画」についての質問項目について

描いた木について、「木のイメージ」、「木の大きさ」、「木の考え・思い」についての質問への回答を検討した。木を描いた後もう一度木を見てもらい、その木についての質問8項目の答えを画用紙の裏に描いてもらった。

「木のイメージ」では「元気な木」が最も多く17人（21.3％）であった。次に「楽しい・明るい」が16人（20.0％）であり、「大きい」、「やさしい・かわいい」など、殆どの生徒がポジティブなイメージで答えていた。

「木の大きさ」では68人（85.0％）と殆どの生徒が「大きい木」をイメージした言葉で答えていた。

また、「木の考え・思い」についても68人（85.0％）が「ここにいて楽しいぞ」、「とても暖かく心がやすらぐなあ」などポジティブな思いを表していた。

（２）「色彩樹木画」についての質問項目とDSRS-C pointの関係について

「木のイメージ」では「ひとりぼっち」など「寂しい」イメージを答えた生徒は３人（3.8％）であり、全てがDSRS-C 16point以上の生徒だった（図

7）。

DSRS-C 16point以上の生徒の「木の大きさ」は「小さい」イメージで答える生徒の割合が多く、「木の考え・思い」についても「未来をなくし悲しんでいることを考えている」、「周りに木が無いので友達がほしい」などネガティブな答えが多かった。

「小さい（やや小さいを含む）」木と評価した者、ネガティブな、「木の考え・思い」を答えた生徒は有意にDSRS-C pointが高かった（図８・９）。

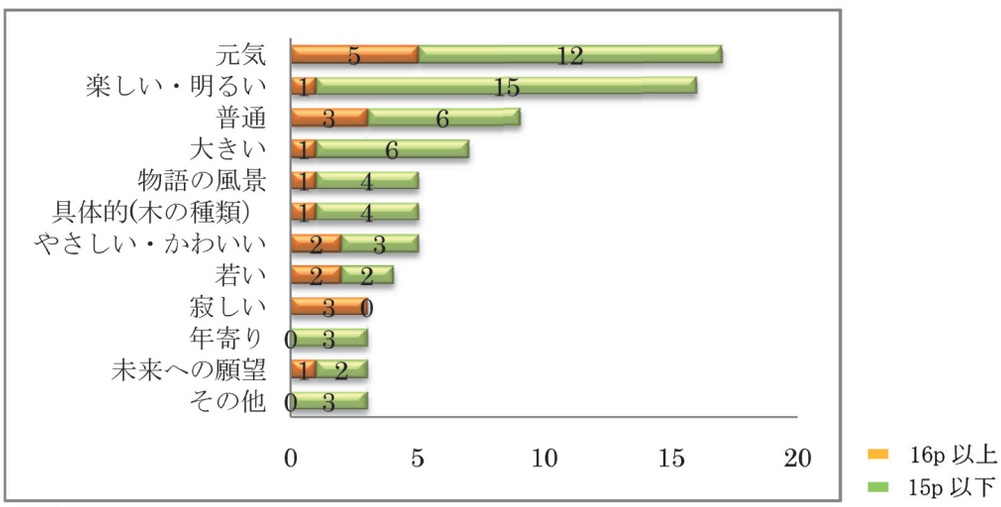


図７　木のイメージ（どのような木をイメージして描いたか）

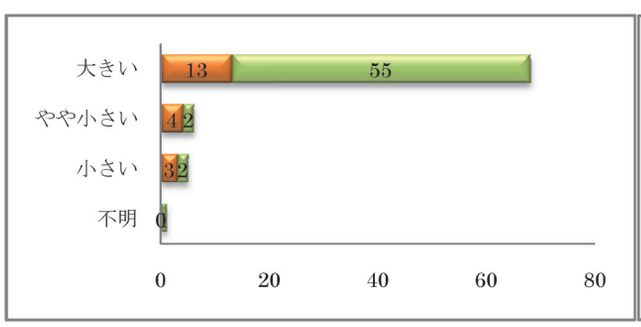


図８　木の大きさ

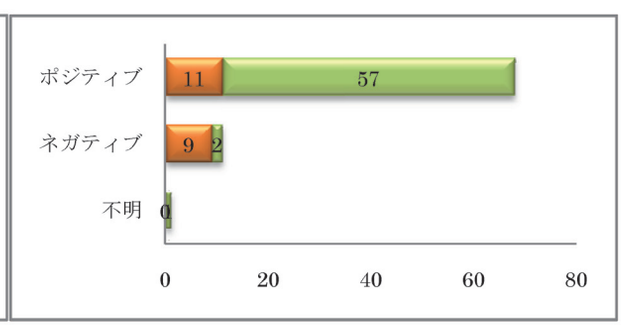


図９　木の考え・思い

考察

平成22年度間の長期欠席者170,526人（30日以上の欠席者）のうち，「不登校」を理由とする児童生徒数は114,971人（前年度間12万２千人）であり、小学校21,675人（前年度間２万２千人）、中学校93,123人（前年度間10万人）であった。山口県でも小学校202人（71人減）、　山口県　1,053人（119人減）であり、若干減ってはいるものの、何らかのこころの問題を抱え学校に向かえない生徒もまだまだ多いのが現状である[5]。

毎年、５月ゴールデンウイーク明けから、Ｂ中学校の１年生に対してスクールカウンセラーとしての自己紹介を兼ねて「こころの健康調査」を行っている。殆どの生徒（91.3％）が学校「楽しい（少し含む）」と感じており、小学校からこころの問題を抱えていたり、不登校気味の生徒も少なくないことを考えると、中学校生活が始まって間もない時期でもあり、生徒が新しい中学校生活に希望を膨らませ、期待している結果かも知れない。学校の楽しさでは、「友達がいるから」と殆どの生徒が答えており、友達がいないと答えた生徒はいなかった。学校の楽しさを感じているものの、約１／４の生徒が勉強で少し困っている様子であり、その他何らかの困りごとを抱えている生徒が半分近くおり、このまま

楽しい中学生活を送るには困りごとへの支援が必要と考える。

こころの状態との関係では「腹痛がある」が59人（73.8％）で最も多く、ストレスに対して身体症状を起こしやすい状態であることが伺える。また同人数で「嫌なことを思い出す」が多く、自己肯定感の危うさを感じさせる。

さらに、DSRS-C 16point以上の抑うつ状態の生徒は20人（25.0％）であり、傳田[3]の調査よりも多い結果であった。「困っていること」の有無でDSRS-C pointに有意な差が認められ、「やる気」について、「ない（含む時々）」生徒が40.0％に見られ、「やる気」の有無とDSRS-C pointにも有意な差が認められた。

学校場面での「やる気」について矢澤[6]は、「否定的な言葉かけは子どものやる気を低下させ、肯定的な言葉かけは子どものやる気を高めると多くの研究で明らかにされている」とした上で、「どのような言葉掛けであっても子どもとの人間関係が良好であるかによって、かけられた言葉のうれしさの程度は変わる」としている。つまり、教員と生徒との間に信頼関係が構築されているなら、どんな言葉かけでも「やる気」を起こさせることができるということである。生徒の「やる気」を起こさせるために教員を含めまわりの大人には、信頼関係の構築が求められる。

Ｃ．コッホ[7]は、「樹木画」は職業適性の件等や教育相談課の補助として最も有効なテストとしている。「樹木画」は、その絵をひととなりの表現としている。「樹木画」を求めることは、特に言語的表現力に乏しい中学生以下の児童・生徒の「樹木画」に投影されたひととなりやこころの内面を理解するのに適していると考えている。

16色のクレヨンを使った「色彩樹木画」は岩井ら[8]も行っている。名島[9]は鉛筆を使った「樹木画」と12色の色鉛筆を使った「色彩樹木画」の組み合わせで、黒-色彩バウムテストを使った心理アセスメントを行っている。16色のクレヨンを使った「色彩樹木画」を中学生に行った場合、「クレヨン」を使うことが少し退行状況を引き出し、防衛が鉛筆で描く以上に薄れるのではないかと考えている。さらに描いた「色彩樹木画」への質問は、こころの内面を少しふりかえり、言語化する機会を与えていることによって多面的な情報が得られると考えている。

今回、「色彩樹木画」を描いてもらった後の８項目の質問の内、「木のイメージ」、「木の大きさ」、「木の考え・思い」の３つの質問への回答について検討した。

描いた「木のイメージ」では「寂しい」イメージを答えた生徒は３人おり、全てDSRS-C 16point以上の生徒だった。16point以上の生徒は、「木の大きさ」は「小さい」イメージで答える割合が多かった。「考え・思い」は「ネガティブ」な答えが多く、DSRS-C pointでは「小さい」木と評価した生徒、「ネガティブ」な「思い・考え」を答えた生徒は有意に高かった。

ただ、16point以上の生徒であっても、描いた「色彩樹木画」では比較的大きい木を描いている生徒が多く、「寂しい」イメージや「ネガティブ」な「考え・思い」を感じることができないものも多かったが、質問項目に答えてもらうことで情報が多くなり、絵の分析も深い考察ができるようになると感じられる。

「色彩樹木画」は、生徒の状態を把握する重要な情報源になるものの、絵の中には共通した特徴、特異な特徴はなかなか見いだせず、描かれた「色彩樹木画」の情報だけからは問題を探ることはやや困難と考えられた。しかし、DSRS-16point以上の生徒は、保健室の頻繁利用者であったり、小学校時代学校不適応の既往があったり、現在問題が顕在化しているケースもあり、得られたさまざまな情報をもとに、「色彩樹木画」を介して教員、保護者に説明するには効果的なツールになると考える。

まとめ

Ｂ中学１年生では、学校は楽しいと殆どの生徒が答えていたが、勉強へのつまずきが少しづつ顕在化し始めていた。

こころの状態としては73.8％の生徒が「腹痛」として身体症状を起こしやすい状態であること、「嫌なことを思い出す」とした自己肯定感の危うさを感じさせた。

DSRS-C16point以上の抑うつ状態の生徒が１／４に見られ、「やる気」のない生徒が40％に見られた。

「色彩樹木画」の質問項目で、「寂しい」、「小さい木」木の小ささ、ネガティブな考え・思いのイ

メージとDSRS-Cのポイントに関係があった。

引用文献

1）山口県教育長　学校安全・体育課（県）：http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15900/koyou/shiennkikann/apd1_7_2011020609104223.pdf

2）中野明徳：スクールカウンセリング、精神科治療学、23（増）、75-81、2008.

3）傳田健三、賀古勇輝、佐々木幸哉他：小・中学生の抑うつ状態に関する調査－Birleson自己記入式抑うつ評価尺度（DSRS-C）を用いて－、児童青年精神医学とその近接領域、45、424-436、2004.

4）中村仁志、太田友子：中学生のこころの状態と「色彩樹木画」との関連について、山口県立大学看護栄養学部紀要　通巻第４号、21-26、2011.

5）文部科学省：平成23年度学校基本調査の速報について　報道発表　2011.8.4.

6）矢澤久史：指導者の言葉かけが子どものやる気と認知に及ぼす影響、東海学園大学紀要１、211-217、2007.

7）Charles Koch:THE TREE TEST（THE TREE-DRAWING TEST as an aid in psychodiagnosis），林 勝造 他訳：バウム・テスト－樹木画による人格診断法、日本文化科学社、1970.

8）岩井浩編著：描画によるこころの診断－子どもの正常と異常を見るために、日本文化科学社、1981.

9）名島潤慈：心理アセスメントにおける黒－色彩バウムテスト・自画像・真珠採り・夢（1）、山口大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要第17号、143-156、2004.